

【まちのそよ風】

【この一冊】

ホームページ開設中!

http://sekizn.s50.xrea.com/

【まちの風便り】

さらばヤマのシンボル

「尾去沢鉱山倶楽部」年内解体へ

鹿角市の尾去沢鉱山全盛期の面影を残す宿泊施設「尾去沢鉱山倶楽部」が、年内にも解体されることが決まった。築後六十五年を経過し老朽化が進み、維持管理費がかかることなどが理由。一九七八年の閉山以降、華やかな鉱山文化をしのびせる建物は次々と姿を消しており、付近住民からは解体を惜しむ声が上がっている。

老朽化顕著、維持費負担に



解体が決まった鹿角市の「尾去沢鉱山倶楽部」

鉱山倶楽部は、三十九年に建てられた木造建築物。総二階建ての洋館と、平屋建ての離れ座敷からなり、敷地内にはツツジや紅葉が映える庭園もある。鉱山で働く幹部社員が宿泊や厚生施設などとして利用されていたが、操業規模が縮小された六〇年代後半から、一般客を受け入れを開始。和室九室で五十人ほどが宿泊可能で、お盆や夏休みなどは関連会社に異動した元従業員が宿泊するなどとしてにぎわいを見せた。

銅価格の低迷と資源の枯渇に伴い、七八年に鉱山は閉山したが、八一年に鉱山の旧坑を利用した観光施設「オープンすると、再び活気」「メインランド尾去沢」が戻った。七〇年から鉱山の解体が決まった鹿角市の「尾去沢鉱山倶楽部」



『命』

宮越由貴奈

命はとても大切な人間が生きるための電池みたいだでも電池はいつか切れる命もいつかはなくなる電池はすぐにとりかえられるけど命はそう簡単にはとりかえられない何年も何年も月日がたつてやっと神様から与えられるものだ命がないと人間は生きられないでも「命なんかいらない。」と言って命をむだにする人もいるまだたくさん命がつかえるのにそんな人を見ると悲しくなる命は休むことなく働いているのだから、私は命が疲れたと言うまでせいっぱい生きよう

「電池が切れるまで」より

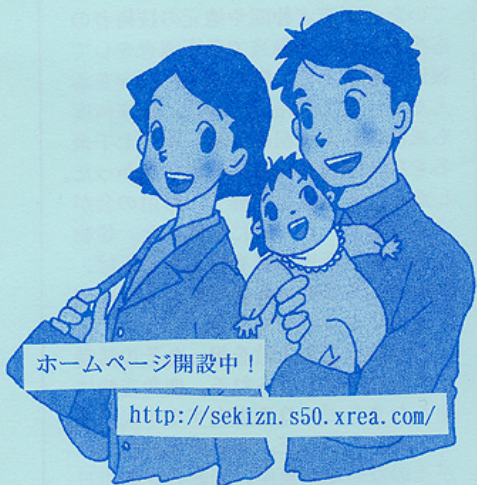
秋田の男女共同参画を

◎『男は仕事、女は家庭』あなたの家庭は？

6月は男女共同参画推進月間です。男女共同参画社会とは、個人の自立と協力のもとに、男女がともに個性や能力を発揮し、健康で豊かな生活を享受できる社会です。

生きがいをもって、安心して暮らすことのできる秋田県を実現するために県民全体で男女共同参画社会を創造するものです。

秋田の約半数の人たちが「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成です。男女の性別によって果たすべき役割を決める考え方を「性別役割分担意識」といいますが、これは、性別にこだわって様々なことがらを決めたり、判断しようとしたりする考え方です。



ホームページ開設中!

http://sekizn.s50.xrea.com/

NPOの風

あづましいふるさと

「あづまこ」に分かるかな?中学生に出した方言クイズの二つである。この地方の言葉が「こへりする」「落ち着く」「居心地がいい」などの意味がある。前に広島から遊びに来た友人はこの言葉をとても気に入って、酒の席で何回も鹿角はアツマシイところだ」と、多少なまりが違っても気に入ることなく繰り返していた。しかし、標準語慣れた中学生たちは分からなかった。「へそび」なども現代の生活様式から消えて久しい。鍋釜底のすずは電気やガスではつかないものである。世の変遷の表れでもある。話は変わるが、かつて、花輪の町には雪国特有である雁木造りの「こもせ」が連なっていた。「こもせ」とは今風に言えば木造アーケードのようなものであり、雨が降って

も町のカミシモを通るのに傘などいらなかった。春先のまだ雪の消えないときでも、その軒下(「あづまこ」)や「こへり」には「などの遊びに興じていたものである。そのこもせが付いた町家も経済成長期とともに新しい家々が立ち並び始め、さらに道路拡幅事業などによる改築で、現在花輪ではたった二軒を残すのみとなってしまった。時代の移り変わりにより、消え行くものは多々ある。すべてと言わないが後世に伝えていかねばならないものささも、知らぬうちに自分たちの手で壊しているのかも知れない。なくなってしまうから惜しむのではなく、あるいは少しでも後世に残す努力をしなければならぬ。「あづまこ」をめぐって、在次の時代に伝えるために

倶楽部を管理している小笠原勤さん(68)は「昼食時の二階の広間は、三百人を二回転させるほどにきわいい目が回るほど忙しかった」と振り返る。しかし、五年ほど前から客足が遠のくようになり、土台の腐食や壁のひび割れなどの老朽化に加え、防火壁やスプリンクラーの不備も指摘されていた。施設を所有する三菱マテリアル不動産(本社・東京都)の秋田開発事業部は「博物館な

まちの風通信

田中 幸徳 (NPO関巻賑わい屋敷)